

人と植物とのかかわりを探る(11)

誌名	農業および園芸 = Agriculture and horticulture
ISSN	03695247
著者名	松尾,英輔
発行元	養賢堂
巻/号	90巻9号
掲載ページ	p. 901-912
発行年月	2015年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



人と植物とのかかわりを探る [11]

植物色名—植物の名前を借りた色名—

松尾 英輔*

〔キーワード〕: 伝統色名, 英語色名, 色名の由来,
種名, 属名

はじめに

日本の気候は四季の変化に富み, 私たちは色彩豊かな自然に恵まれた景観を堪能できる。とくに春は, 植物が芽吹き, 花を咲かせて, 景観の多彩さとその変化を演出し, 秋は多彩な紅葉が山野を染め上げる。このように自然景観を彩る植物が, 身近にみられる色の名前として使われている。たとえば, 桃(モモ)色, 山吹(ヤマブキ)色, 桜(サクラ)色, バラ色, 女郎花(オミナエシ)色, 桔梗(キキョウ)色, 柿(カキ)色, 蜜柑(ミカン)色など, 身近なところで, 誰でも目にする植物の名前を借りた色名である。しかし, このことが意外に知られていない。

このような植物の名前を借りた色名はどれほど知られているのだろうか。15年ほど前に, 植物には比較的なじみがあるはずの, 主に農学部学生を対象にして, 植物の名前, 正確に言えば, 属名・種名(日本語の和名あるいは外国語名がカタカナ書きで表現されているもの)が色の名前として使われている例を尋ねた。その結果, 正解は平均してわずか5個弱にすぎなかった(松尾・増田 1999)。

そもそも, 植物の名前を用いて表現された色名にはどんなものがあるのだろうか。増田・松尾(2001)によると, およそ1900個の色名のうち, 約50%が何らかの形で植物に関係するものであり, 外国語の例とあわせておよそ180個が植物の名前(分類学上の属または種の和名・異名・別名, カタカナ書きの外国名)そのものが色の名前となっていた。

このようにたくさんの植物の名前が色名として存在することは, 私たちは色名になっている植物を日常生活のなかでみかけていることを意味している。このことは, 暮らしのなかの植物と色との関係を, 教育的にも, 社会的にも活用しうること示唆している。たとえば, 子どもたちに対しては, 庭や

公園で色名となっている花を話題にして植物への関心を高めたり, 色彩感覚を磨いたりなど教育的な面での活用が期待される。高齢者施設や園芸療法の場合は, 庭にある植物が色名になっていることがわかれば, 会話のきっかけとなり, コミュニケーションが円滑に進むだけでなく, 植物への関心が高まり, 栽培活動に励みが出るなど, 社会的にも療法的にも活用しうる。

本稿では, その後に発行された資料をも参考にし, 主に植物の属名と種名(異名, 別名を含む和名とカタカナ書きの英語名)を借りた色名(植物色名)をリストアップし, その由来や植物の主な用途をあわせて整理し, 植物と人間とのかかわりの深さを示す例の一つとして紹介する。

1. 色の表し方

農業や園芸の領域では, とくに植物の色が大きな役割をもつ。たとえば, 花はさまざまな色を表現して私たちの目をたのしませてくれるし, 果実や種子はその色によって収穫時期や食べ頃を教えてくれる。少し栽培になれば葉の色の変化で水分や栄養の状態, 病気の種類などを知ることができるようになる。しかしながら, よく考えてみると, とくに同じ色の花や果物をみても, 見た人すべてが同じイメージでとらえているかどうかは疑わしい。

それは, 一言で色といっても, ほかの色とは違うという特性(色相)のほかに, 明るい色と暗い色との違いという特性(明度), さらに鮮やかな色とより弱い色とを区別する特性(彩度)という属性をもっていて(マンセル 2009), これらの三つの属性を組み合わせると, 色は無限に広がることになり, どの程度の違いで識別すればよいか收拾がつかなくなるからである。実際, 赤いバラ, 赤いトマトといっても, 黄味を帯びているか青味を帯びているか, 明るい暗い, 鮮やかかそうでないかなど, 見る人によってその色のイメージはいちじるしく異なる。

* 園芸福祉研究所・九州大学名誉教授 (Eisuke Matsuo)

る。

こういうわけで、微妙な色の違いを求められる建築、服飾、室内装飾、家具・調度品などの専門領域では、規格をそろえ、認識を共通にするために、これら三つの属性に基づいて色を表現するマンセル表色系が広く用いられている。カーテンの生地や壁紙の色を選びに行った店で、色を記号・番号で説明されて戸惑ったという方は多いのではなかろうか。農・園芸領域でも、花や果物の色を表現するとき、一部に上記の考え方を取り入れたカラーチャートを使って表現することがある。

上記のように、記号や番号で色を表現されても、素人にはかえってわかりにくく、イメージがわからない。普段の生活のなかでは、色の厳密な表現を求めるよりも、融通無碍（ゆうずうむげ）、ある意味では、当たらずとも遠からずの、きわめてあいまいな色の表し方のほうが各人の想像が膨らみ、夢があってよいというとらえ方もありうる。古来伝統的に行われてきた色の識別とその伝達は、現時点で考えれ

ば、そのあいまいな表し方の典型的なものといえるのではなかろうか。

2. 植物に関係ある色名の特徴と分類

植物に関係のある色名は、植物の名前（科名、属名、種名、品種名、それらを特定しない総称など）を用いないものと用いたものとに大別される。前者では、植物がもつ一般的な色の特徴や、植物の成長段階にみられる色、植物とは関係のない色と組み合わせた連結色があげられる。後者では、植物の名前そのもののほかに、それらの濃淡、植物の成長にもなう色の変化をとらえた色、器官や部位を用いて表現した色、色の名前となっている植物を連結して表現した色、植物の産品やそれからできる製品の色、植物の名前ではない色と組み合わせた連結色などがある。それらを大まかに分類していくつかの例を示したのが表1である。

植物の種類を分類学的に特定できない、すなわち、植物に関係はしているが、植物の名前ではなく、植

表1 植物に関係のある色名の特徴による分類とその例

項目	色名の例
1. 植物の名前を特定できない色名	
植物に共通する特性	草色、花葉色、樹皮色
成長段階の特徴	若草色、(若) 苗色、若菜色、若葉色、青葉色、紅葉色、枯草色、朽葉色
植物とは無関係な色との結合色	赤朽葉色
2. 植物の名前ではなく、製品や部分	辛子色、マスタード、菜種油色、葡萄酒色、枇杷子色、土筆色、麦藁色、藁色
3. 植物の名前を用いる色名	
科名	オーキッド色
植物(属、種)を特定できない	茅色、笹色、苔色、柴色、団栗色、菜の花色
属名または種名	表2を参照のこと
品種名・系統名	紅梅色、紅藤色、白藤色
器官・部位	葉
	松葉色、柳葉色、柚葉色、ベイ・リーフ
	花
	桃花色、桔梗花色、アップルブロッサム
	果実
	桑の実色、棕の実色、栗皮色、麦穂色
	皮・根
	紫根色、檜皮色
特徴的な色を強調	茄子紺、栗皮茶、豆がら茶、キャロットオレンジ、サルビアブルー、レモンイエロー、ポピーレッド、オレンジグリーン
成長段階の特徴	萌葱色、早蕨色、若竹色、青竹色、老竹色
色の濃淡	浅葱色、浅藍色、薄紫色、濃紫色、深蘇芳色
結合色名(組み合わせ)	
植物の色名	桑茶色、藤紫色、紅柑子色
ほかの色名	青紫色、赤橙色、茶褐色、焦茶色

注1: 紫陽花、槿花、卯の花、尾花、女郎花、燕子花、紅花、コーンフラワー、サンフラワー、ベルフラワーなどは植物名である。

注2: 本表は主として、「濱田信義(編)2007. 日本の伝統色. ピエ・ブックス. 東京」、「福田邦夫2006. 色の名前507. 主婦の友社. 東京」、「梅棹ら. 講談社カラー版日本語大辞典. 講談社. 東京」によって作成した。

物に共通する特性を表現した例としては、草色、花葉色、樹皮色などがある。植物の成長を示す色名としては、若草色、苗色、若苗色、若菜色、若葉色、青葉色、紅葉色、枯草色、朽葉色などがあげられる。赤朽葉色は、植物の特徴と植物とは関係のないほかの色とを組み合わせた連結色名である。

植物の名前を含むか、それに類似しているが、植物そのものではなく、それらから得られる製品あるいはその類似品の色名として、辛子色・マスタード色(カラシナの種子で作った香辛料)、菜種油色(ナタネ種子からしぼった油)、葡萄酒色(英語ではワインカラー)、檳榔子色(びんろうじいろ; ピンロウの種子)、土筆色(スギナの生殖器官)、麦藁色(乾燥したムギ類の稈と葉)、藁色(乾燥したイネの稈と葉)などがあげられる。

植物の名前を用いた色名のうち、分類学上の科レベルではオーキッド色がみられる程度である。オーキッドという言葉聞いたとき、外国人には特定の種あるいは属のランがイメージされているのであろうが、日本人にはわかりにくいし、外国人でもだれもが同じものをイメージしているかどうかはわからない。

属・種レベルの植物色名が本稿の主題でもあり、その数が多いので、後で詳しく述べる。

属を越えていくつかの植物の総称が使われ、属名や種名が特定できないものでは、茅色、笹色、苔色、柴(ふし)色、団栗(どんぐり)色などがある。品種・系統レベルの名前では、紅梅色、紅藤色、白藤色、パンジー色などがある。

植物の器官や部位を用いて示した色名では、松葉色、柳葉色、柚葉色、ベイ・リーフなど葉の色、桃花色、桔梗花色、萩花色、アップルブロッサム、ピーチブロッサムなど花の色、桑の実色、棕の実色、栗皮色、麦穂色など果実・種子の色、紫根色、檜皮色など根や茎(樹皮)の色を示すものがある。なお、花あるいはフラワーという文字が付いた槿花、紫陽花、卯の花、尾花、女郎花、燕子花、紅花、コーンフラワー、サンフラワー、ベルフラワーなどはいずれも植物種の和名あるいは英名である。

ある植物に特有な色であることを強調して示す色名として、茄子紺、栗皮茶、豆がら茶、サルビアブルー、オリーブグリーン、レモンイエロー、キャロットオレンジ、ポピーレッドなどがあるが、いず

れかといえば、英語由来の色名に多くみられる。

成長段階の植物の色を示すものには萌葱色、早蕨色、若竹色、青竹色、老竹色など、濃淡の色彩を示す色には浅葱(あさぎ)色、浅藍(うすきあい)色、濃蘇芳(こきすおう)色、淡紫(薄紫)色、濃紫(こきむらさき)色などがある。さらに、他の色と組み合わせた連結色名には、色名となっている植物の名前同士を組み合わせた色(桑茶色、藤紫色、紅柑子色など)のほかに、植物とは関係のない色名と組み合わせた色(青紫色、赤橙色、茶褐色、焦げ茶色など)がある。

3. 植物色名：植物の属名・種名(和名・別名)を借りた色名、その由来と植物の用途

本稿では、参考資料に記載された色名のなかから、原則として植物の属名と種名(日本の伝統色名では和名ならびにその別名・異名・古名、外来語由来の色名は英語名)を用いた色名(植物色名)を可能な限りピックアップした(表2)。その際、日本の伝統的植物色名(伝統色名と略記)と英語の植物色名(英語色名と略記)とは必ずしも対応しているわけではないので、本稿では分けてまとめた。というのは、日本の色名と併記されている英語の色名は、色の類似によって選ばれ、意味や由来はお互いに無関係なものが多い(福田 1999)からである。たとえば、藤色は英語色名では Wisteria (ウイステリア)(濱田 2007)のように、和英の植物色名が一致している例もあるが、鬱金色には英語では Dandelion (ダンディライアン)(長崎 1988)や、まったく植物とは関係のない Golden yellow (濱田 2007)があてられていたりしている。また、Marigold の英語色名があてられているのは萱草色である(長崎 1988)。

本稿にリストアップされた植物色名は、伝統色については、色名では 122 個、漢字表記で 117 個、属・種名の数では 111 個であり、英語由来の外来色では、カタカナ表記の色名 132 個、属・種名の数では 124 個であった。

まず植物色名の数は、2001 年の報告(増田・松尾 2001)に比べるとかなり多い。伝統色名が増えた理由の一つは、2001 年には取り上げられていなかった重色目(かさねのいろめ)を加えたことである。

英語色名の増加については、福田(1999)が指摘するように死語化する色名もあるが、知識や技術

表2 植物の名前を借りた色名(植物色名), その由来と植物の主な用途

<伝統的植物色名>

色名	漢字表記	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
あいいろ	藍色	アイ	<i>Polygonum tinctorium</i>	染色	染料
あおいいろ	葵色	アオイ, タチアオイ	<i>Althaea rosea</i>	花	観賞
あかねいろ	茜色	アカネ	<i>Rubia cordifolia</i>	染色, 根	染色, 薬
あさがおいろ	朝顔色, 槿花色	アサガオ (ムクゲの古名)	<i>Hibiscus syriacus</i>	花	観賞
あじさいいろ	紫陽花色	アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i>	花	観賞
あずきいろ	小豆色	アズキ	<i>Phaseolus angularis</i>	種皮	食
あまいろ	亜麻色	アマ	<i>Linum usitatissimum</i>	繊維	繊維, 油
あやめいろ	菖蒲色	アヤメ, ショウブ	<i>Iris nertschinskia</i>	花	観賞
あんずいろ	杏色	アンズ	<i>Prunus armeniaca</i>	果実	食, 薬
いちごいろ	苺色	イチゴ	<i>Fragaria</i> spp.	果実	食
うこんいろ	鬱金色	ウコン	<i>Curcuma longa</i>	根茎, 染色	薬, 染料
うのはないろ	卯の花色	ウノハナ, ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>	花	観賞
うめいろ	梅色	ウメ	<i>Prunus mume</i>	花	食
えびいろ	葡萄色, 海老色	エビヅル, ヤマブドウ	<i>Vitis</i> spp.	果皮	食
おうちいろ, あうちいろ	椋色, 櫻色	センダン	<i>Melia azedarach</i>	花	薬, 材
おぎいろ	荻色	オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	枯れた植物	屋根ふき
おばないろ	尾花色	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	枯れた植物	屋根ふき
おみなえしいろ	女郎花色	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i>	花	観賞
かいどういろ	海棠色	カイドウ	<i>Malus halliana</i>	花	観賞
かえでいろ	楓色	カエデ	<i>Acer</i> spp.	葉	観賞
かきいろ	柿色	カキ	<i>Diospyros kaki</i>	果皮	食, 材
かきつばたいろ	燕子花色・杜若色	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>	花	観賞
かじいろ	梶	カジ (ノキ)	<i>Broussonetia papyrifera</i>	茎葉	和紙
かばいろ	樺色	ダケカンバ, ヤマザク ラ	<i>Betula</i> spp.	樹皮	材
かばいろ	蒲色	カバ, ガマ	<i>Typha latifolia</i>	穂	薬
かぼちやいろ	南瓜色	カボチャ	<i>Cucurbita moschata</i>	果肉	食
かりやすいろ	刈安色	カリヤス	<i>Miscanthus tinctorius</i>	染色	染料
かんぞういろ, かぞういろ	萱草色	ノカンゾウ, ヤブカン ゾウ	<i>Hemerocallis</i> spp.	花	観賞, 食
かんとういろ	款冬色	ツワブキ, フキ	<i>Ligularia tussilaginea</i>	花	観賞, 食, 薬
かんらんしよく	橄欖色	オリーブ	<i>Olea europaea</i>	果実	食
ききょういろ	桔梗色	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>	花	薬, 観賞
きくいろ	菊色	キク	<i>Chrysanthemum morifolium</i>	花	観賞
きずいせんいろ	黄水仙色	キズイセン	<i>Narcissus jonquilla</i>	花	観賞
きはだいろ	黄檗色	キハダ	<i>Phellodendron amurense</i>	樹皮	材, 薬, 染料
きゃらいろ	伽羅色	キヤラ (ボク)	<i>Taxus cuspidata</i>	染色	香, 染料
くずいろ	葛色	クズ	<i>Pueraria thunbergiana</i>	葉	食, 薬
くちなしいろ	梔子色・支子色	クチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i>	染色, 果肉	食, 薬, 染料
くぬぎいろ	櫟色	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	染色	材, 染料, 薬
くりいろ	栗色	クリ	<i>Castanea crenata</i>	種皮	食
くるみいろ	胡桃色	クルミ	<i>Juglans mandshurica</i>	種皮, 染色	食, 材
くれない (いろ)	紅・紅色	クレナイ, ベニバナ	<i>Carthamus tinctorius</i>	染色	染料, 薬, 油, 食
くわいろ	桑色	クワ	<i>Morus bombycis</i>	染色	染料, 食
こうじいろ, かんじいろ	柑子色, 柑色	コウジ, タチバナ	<i>Citrus tachibana</i>	果皮, 果実	食
こくたんいろ	黒檀色	コクタン	<i>Diospyros ebenum</i>	材	材
こむぎいろ	小麦色	コムギ	<i>Triticum aestivum</i>	種子	食
さくらいろ	桜色	サクラ	<i>Prunus</i> spp.	花	観賞
ざくろいろ	石榴色	ザクロ	<i>Punica granatum</i>	果皮, 花	食, 薬, 観
さふらんいろ	泊夫藍色	サフラン	<i>Crocus sativus</i>	花	薬, 染料, 香辛
しおんいろ	紫菀色	シオン	<i>Aster tataricus</i>	花	観賞, 薬
したんいろ	紫檀色	シタン	<i>Pterocarpus santalinus</i>	木部	材
しゅろいろ	棕櫚色	シュロ	<i>Trachycarpus</i> spp.	幹皮	薬, 繊維

表2 植物の名前を借りた色名(植物色名), その由来と植物の主な用途(続き)

色名	漢字表記	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
しょうびいろ, そうびいろ	薔薇色	バラ	<i>Rosa hybrida</i>	花	観賞, 薬
しょうぶいろ, あやめいろ	菖蒲色	アヤメ, ハナショウブ	<i>Iris ensata</i>	花	観賞
すおういろ	蘇芳色	スオウ, スホウ	<i>Caesalpinia sappan</i>	染色	染料
すすきいろ	薄色	すすき	<i>Miscanthus sinensis</i>	枯れた植物	屋根葺き
すみれいろ	堇色	すみれ	<i>Viola mandshurica</i>	花	野草
せきちくいろ	石竹色	セキチク	<i>Dianthus chinensis</i>	花	観賞
そうしよく, しゅろいろ	櫻色	シュロ	<i>Trachycarpus</i> spp.	幹皮	薬, 繊維
だいだいろ	橙色	ダイダイ	<i>Citrus aurantium</i>	果皮	食
たちばないろ	橘色	たちバナ	<i>Citrus tachibana</i>	果皮	食
たばこいろ	煙草色	タバコ	<i>Nicotiana tabacum</i>	乾燥葉	嗜好, 薬
たんぼぼいろ	蒲公英色	タンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>	花	食, 薬
ちくさいいろ, ちぐさいいろ	千草色	ツクサ	<i>Commelina commulifolia</i>	花, 染色	染料
ちやいろ	茶色	チャ	<i>Camellia sinensis</i>	染色	飲
ちょうじいろ	丁子色	チョウジ (ノキ), クローブ	<i>Syzygium aromaticum</i>	染色	食, 香料, 染料
ちょうしゅんいろ	長春色	チョウシュン, コウシンバラ	<i>Rosa chinensis</i>	花	観賞
つきくさいいろ	月草色	ツクサの古名	<i>Commelina commulifolia</i>	花, 染色	染料
つじいろ	躑躅色	ツツジ	<i>Rhododendron</i> spp.	花	観賞
つばきいろ	椿色	ツバキ	<i>Camellia japonica</i>	花	油, 観賞
つゆくさいいろ	露草色	ツクサ	<i>Commelina commulifolia</i>	花, 染色	染料
つるばみいろ	橡色	ツルバミ, クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	染色	材, 染料, 薬
つわぶきいろ	石蒜色	ツワブキ	<i>Ligularia tussilaginea</i>	花	観賞, 食, 薬
とうもろこしいろ	玉蜀黍色	トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	種子	食
とくさいいろ	木賊色	トクサ	<i>Equisetum hiemale</i>	稈 (乾燥)	研磨, 薬
なしいろ	梨(子)色	ナシ	<i>Pyrus serotina</i>	果皮	食
なたねいろ	菜種色	なたね	<i>Brassica campestris</i>	油	食, 油
なつばぎいろ	夏萩色	ナツハギ, ミヤギノハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i>	花	観賞
なでしこいろ	撫子色	ナデシコ, カラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i>	花	観賞
につけいろ	肉桂色	ニッケイ	<i>Cinnamomum loureirii</i>	乾燥樹皮	香料, 薬
にわうめいろ	唐楊色	ニワウメ	<i>Prunus japonica</i>	花	観賞
にんじんいろ	人参色	ニンジン	<i>Daucus carota</i>	塊根	食
はぎいろ	萩色	ハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>	花	観賞
はじいろ, はぜいろ	檀色	ハジ, ハゼ, ヤマハゼ	<i>Rhus silvestris</i>	染色	蠟, 染料
はしばみいろ	榛色	ハシバミ	<i>Corylus heterophylla</i>	果実	食
はなしょうぶいろ	花菖蒲色	ハナショウブ	<i>Iris ensata</i>	花	観賞
はねずいろ	朱華色	ニワウメ	<i>Prunus japonica</i>	花	観賞
はまなすいろ	玫瑰色	ハマナス, ハマナシ	<i>Rosa rugosa</i>	花	食, 染料, 香
はまなでしこいろ	浜撫子色	ハマナデシコ	<i>Dianthus japonicus</i>	花	観賞
ばらいろ	薔薇色	バラ	<i>Rosa hybrida</i>	花	観賞, 薬
はりいろ	榛色	ハリ (ノキ), ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	染色	工芸
ひなげしいろ	雛罌粟色	ヒナゲシ	<i>Papaver rhoeas</i>	花	観賞
ひまわりいろ	向日葵色	ヒマワリ	<i>Helianthus annuus</i>	花	観賞, 油
ひめゆりいろ	姫百合色	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	花	観賞
びわいろ	枇杷色	ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	果実	食, 薬
ふきいろ	款冬色	フキ, ツワブキ	<i>Petasites japonicus</i>	花	食, 薬
ふじいろ	藤色	フジ, ノダフジ	<i>Wistaria floribunda</i>	花	観賞
ふじばかまいろ	藤袴色	フジバカマ	<i>Eupatorium stoehadosmum</i>	花	観賞, 薬
ぶどういろ	葡萄色	ヤマブドウ, エビヅル	<i>Vitis</i> spp.	果皮	食
べにばないろ	紅花色	ベニバナ	<i>Carthamus tinctorius</i>	染色	染料, 薬, 油, 食

表2 植物の名前を借りた色名(植物色名), その由来と植物の主な用途(続き)

色名	漢字表記	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
ぼたんいろ	牡丹色	ボタン	<i>Paeonia suffruticosa</i>	花	観賞
まついろ	松色	マツ	<i>Pinus</i> spp.	葉	材, 観賞
まつばぼたんいろ	松葉牡丹色	マツバボタン	<i>Portulaca grandiflora</i>	花	観賞
まゆみいろ	檀色	マユミ	<i>Euonymus sieboldiana</i>	花	弓材
みかんいろ	蜜柑色	ミカン	<i>Citrus</i> spp.	果皮	食
みるいろ	海松色	ミル	<i>Codium fragile</i>	植物	食
むくげいろ	木槿色, 槿花色	ムクゲ	<i>Hibiscus syriacus</i>	花	観賞
むらさきいろ	紫色	ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	染色	染料, 薬
むらさきしきぶいろ	紫式部色	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	果実	観賞
もくせいいろ	木犀色	モクセイ	<i>Osmanthus asiaticus</i>	花	観賞
もくらんいろ, もくらんじき	木蘭色	モクラン(モクレン)	<i>Magnolia liliflora</i>	花	観賞
もちつつじいろ	餅躑躅色	モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>	花	観賞
ももいろ	桃色	モモ	<i>Prunus persica</i>	花, 果実	食, 薬, 観賞
やなぎいろ	柳色	ヤナギ	<i>Salix</i> spp.	葉	観賞
やまぶきいろ	山吹色	ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	花	観賞
やまももいろ	楊梅色	ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>	染色	食, 染料, 薬
よもぎいろ	蓬色	ヨモギ	<i>Artemisia vulgaris</i>	葉	食, 薬
りんどういろ	竜胆色	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i>	花	観賞, 薬
れもんいろ	檸檬色	レモン	<i>Citrus limon</i>	果皮	食
わさびいろ	山葵色	ワサビ	<i>Wasabia japonica</i>	すりおろした根茎	食
わすれぐさいいろ	忘れ草色	ワスレグサ(カンゾウの古名)	<i>Hemerocallis fulva</i>	花	観賞, 食
わすれなぐさいいろ	勿忘草色	ワスレナグサ	<i>Myosotis scorpioides</i>	花	観賞
われもこういろ	吾亦紅色	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	花	野草

<英語(カタカナ書き)の植物色名>

色名	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
アーモンド	アーモンド	<i>Prunus dulcis</i>	乾果皮	食
アイリス	アイリス	<i>Iris</i> spp.	花	観賞
アスター	ヨメナ, エゾギクなど	<i>Aster</i> spp.	花	鑑賞
アブリコット	アンズ	<i>Prunus armeniaca</i>	果実・皮	食
アボカド	アボカド	<i>Persea americana</i>	果皮	食
アマランサス	ハゲイトウ	<i>Amaranthus</i> spp.	葉	食, 染料
インディゴ, インジゴ	インディゴ, インドアイ	<i>Indigofera</i> spp.	染色	染料
ウイスタリア, ウィステリア	フジ	<i>Wistaria</i> spp.	花	観賞
ウォルナット	クルミ	<i>Juglans</i> spp.	種皮	食, 材
エッグプラント	ナス	<i>Solanum melongena</i>	果皮	食
エボニー	コクタン	<i>Diospyros ebenum</i>	材	材, 木工
エリカ	エリカ, ヒース	<i>Erica</i> spp.	花	観賞
エルダーベリー	ニワトコ	<i>Sambucus</i> spp.	果実	薬
エンダイブ	キクジシャ, エンダイブ	<i>Chicorium endivia</i>	葉(植物体)	食
オーク	オーク, コナラ属	<i>Quercus</i> spp.	材	家具, 建材
オリーブ	オリーブ, カンラン	<i>Olea europaea</i>	果実	食, 材
オレンジ	オレンジ	<i>Citrus aurantium</i>	果皮	食
カーネーション	カーネーション	<i>Dianthus caryophyllus</i>	花	観賞
カトレア	カトレア	<i>Catleya</i> spp.	花	観賞
カメリア	ツバキ	<i>Camellia japonica</i>	花	観賞, 油
カンパニュラ	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>	花	観賞
キャベッジ	キャベツ	<i>Brassica oleracea</i>	葉	食
キャロット	ニンジン	<i>Daucus carota</i>	塊根	食

表2 植物の名前を借りた色名 (植物色名), その由来と植物の主な用途 (続き)

色名	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
グラジオラス	グラジオラス, オラン ダアヤメ	<i>Gladiolus gandavensis</i>	花	観賞
グレープ	ブドウ	<i>Vitis vinifera</i>	果実	食
グレープフルーツ	グレープフルーツ	<i>Citrus paradisi</i>	果皮	食
クロッカス	クロッカス	<i>Crocus</i> spp.	花	観賞
コルク, コルク	コルク, コルクガシ	<i>Quercus suber</i>	樹皮	コルク栓
コーヒー	コーヒーノキ	<i>Coffea</i> spp.	コーヒー茶	飲料
コーン(主に米)	トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	種子	食, 油
コーンフラワー	ヤグルマギク	<i>Centaurea cyanus</i>	花	観賞
コスモス	コスモス, アキザクラ	<i>Cosmos</i> spp.	花	観賞
サフラン	サフラン	<i>Crocus sativus</i>	花の雄蕊	薬, 染料, 香辛
サルビア (赤)	サルビア	<i>Salvia officinalis</i>	花	観賞
サロー	ネコヤナギ, カワヤナ ギ	<i>Salix</i> spp.	花	観賞
サンフラワー	ヒマワリ	<i>Helianthus annuus</i>	花	観賞
シクラメン	シクラメン	<i>Cyclamen persicum</i>	花	観賞
シスル	アザミ	<i>Cirsium</i> spp.	花	食
シトラス, シトロン, シ トリン	シトロン, マルブシュ カン	<i>Citrus medica</i>	果皮	食
シナモン	ニッケイ	<i>Cinnamomum loureirii</i>	樹皮 (乾燥)	香料, 嗜好
ジャスミン	ジャスミン	<i>Jasminum</i> spp.	花	観賞, 香水
ジュニパー	セイヨウネズ	<i>Juniperus communis</i>	葉	園芸, 小容器
ジョンキル	キズイセン	<i>Narcissus jonquilla</i>	花	観賞
ジンジャー	ショウガ	<i>Zingiber officinale</i>	根茎皮	食
ストロベリー	イチゴ	<i>Fragaria chiloensis</i>	果実	食
スプルース	トウヒ	<i>Picea</i> spp.	葉	材
スペアミント	スペアミント, ミドリ ハッカ	<i>Mentha spicata</i>	葉	香料, 油
ゼラニウム	ゼラニウム	<i>Pelargonium inquinans</i>	花	観賞
セロリ	セロリ	<i>Apium graveolens</i>	植物	食
ターメリック	ウコン	<i>Curcuma domestica</i>	粉	薬, 染料
タイガーリリー	オニユリ	<i>Lilium lancifolium</i>	花	観賞
ダッファディル	ラッパスイセン	<i>Narcissus pseudonarcissus</i>	花	観賞
ダフニ	ジンチョウゲ	<i>Daphne odora</i>	花	観賞
ダムズン (ダムスン)	セイヨウスモモ, プ ラム	<i>Prunus domestica</i>	果皮	食
タンジェリン (オレンジ)	ミカン	<i>Citrus reticulata</i>	果皮	食
ダンディライアン	タンポポ	<i>Talaxacum platycarpum</i>	花	観賞, 薬, 食
チーク	チーク	<i>Tectona grandis</i>	材	材
チェスナット	セイヨウトチノキ	<i>Aesculus hippocastanum</i>	種皮	染料, 材, 観賞
チェスナット	クリ	<i>Castanea</i> spp.	種皮	食, 染料
チェリー	セイヨウミザクラ	<i>Prunus avium</i>	果皮	食
チャイニーズピンク	セキチク	<i>Dianthus chinensis</i>	花	観賞
チャイブ	チャイブ (アサツキ)	<i>Allium schoenoprasum</i>	葉	食
トマト	トマト	<i>Solanum lycopersicum</i>	果実	食
ナスタチウム	キンレンカ	<i>Tropaeolum majus</i>	花	観賞, 食
ニンフェア	スイレン	<i>Nymphaea</i> spp.	花	観賞
パーシマン	カキ	<i>Diospyros kaki</i>	果皮	食
バーチ	カバノキ	<i>Betula</i> spp.	樹皮	材
バーベイン	バーベナ, クマツヅラ	<i>Verbena</i> spp.	花	観賞, 香料, 薬
バーベナ	バーベナ, ビジョザク ラ	<i>Verbena</i> spp.	花	観賞, 香料, 薬
バイオレット	スマレ	<i>Viola</i> spp.	花	観賞
パイナップル	パイナップル	<i>Ananas comosus</i>	果肉	食
バターカップ	キンボウゲ	<i>Lanunculus</i> spp.	花	観賞
バナナ	バナナ	<i>Musa</i> spp.	果実	食

表2 植物の名前を借りた色名(植物色名)、その由来と植物の主な用途(続き)

色名	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
ハニーサックル	スイカズラ	<i>Lonicera</i> spp.	花	観賞
バニラ	バニラ	<i>Vanilla planifolia</i>	花	食, 香料
パプリカ	パプリカ	<i>Capsicum annuum</i>	果皮	食
パンプキン	カボチャ	<i>Cucurbita maxima</i>	果肉, 果皮	食
ヒアシンス	ヒアシンス	<i>Hyacinthus orientalis</i>	花	観賞
ビーチ	ブナノキ	<i>Fagus crenata</i>	材	木工
ビーチ	モモ	<i>Prunus persica</i>	果肉	食
ピーマン, ピメントー	ピーマン	<i>Capsicum annuum</i>	果皮	食
ピオニー	シャクヤク	<i>Paeonia albiflora</i>	花	観賞, 薬
ピスタチオ, ピスタチオ	ピスタチオ	<i>Pistacia vera</i>	種皮	食
ピンク	ナデシコ, セキチク	<i>Dianthus superbus</i>	花	観賞
フィルバート	ヘーゼル, ハシバミ	<i>Corylus avellana</i>	種皮	食
ブーゲンビリア	ブーゲンビリア	<i>Bougainvillea</i> spp.	花	観賞
フォアゲットミーノット	ワスレナグサ	<i>Myosotis scorpioides</i>	花	観賞
フォックスグラブ	ジギタリス, キツネノ テブクロ	<i>Digitalis purpurea</i>	花	観賞, 薬
フクシャ	フクシャ, ヒョウタン ソウ	<i>Fuchsia</i> spp.	花	観賞
フラックス	アマ	<i>Linum usitatissimum</i>	繊維	繊維, 油
ブラックベリー	クロイチゴ	<i>Rubus fruticosus</i>	果実	食
プラム	セイヨウスモモ	<i>Prunus domestica</i>	果皮	食
プリムローズ	セイヨウサクラソウ	<i>Primula</i> spp.	花	観賞
ブルーベリー	ブルーベリー	<i>Vaccinium</i> spp.	果実	食
ブルー	セイヨウスモモ	<i>Prunus domestica</i>	果皮	食
ヘイズル, ヘイズル	ハシバミ, ヘイズル ナッツ	<i>Corylus avellana</i>	種皮	食
ベゴニア	ベゴニア	<i>Begonia</i> spp.	花	観賞
ヘザー	エリカ, ヒース	<i>Erica</i> spp.	花	観賞
ペチュニア	ペチュニア	<i>Petunia</i> spp.	花	観賞
ペパーミント	ペパーミント, セイヨ ウハッカ	<i>Mentha × piperita</i>	葉	香
ヘリオトロープ	ヘリオトロープ	<i>Heliotropium arborescens</i>	花	観賞
ベルフラワー	カンパニュラ	<i>Campanula</i> spp.	花	観賞
ベルフラワー	キキョウ	<i>Gentiana</i> spp.	花	観賞
ヘンナ	ヘンナ, シコウカ	<i>Lawsonia inermis</i>	染色(全草)	染料
ホイト	コムギ	<i>Triticum aestivum</i>	種子	食
ホースチェスナット	マロニエ, トチノキ	<i>Aesculus hippocastanum</i>	種皮	材(木工)
ボームグラニット	ザクロ	<i>Punica granatum</i>	種の果肉	食, 薬
ポピー	ヒナゲシ, ケシ	<i>Papaver rhoeas</i>	花	観賞
マホガニー	マホガニー	<i>Swietenia mahogany</i>	材	材
マリーゴールド	センジュギク, マリー ゴールド	<i>Tagetes</i> spp.	花	観賞
マルーン	マロニエ	<i>Aesculus hippocastanum</i>	種皮	染料, 材, 観賞
マルーン	クリ(古くはマロニ エ)	<i>Castanea</i> spp.	種皮	食, 染料
マルベリー	クワ	<i>Morus bombycis</i>	果実	食, 薬, 材
マロー, マロウ	アオイ, ゼニアオイ	<i>Malva</i> spp.	花	観賞
マンダリンオレンジ	ミカン	<i>Citrus reticulata</i>	果皮	食
ミスルトー	ヤドリギ	<i>Viscum album</i>	茎葉	薬
ミモザ	アカシア	<i>Mimosa</i> spp.	花	観賞
ミント	ミント	<i>Mentha</i> spp.	葉	香料
メイズ(主に英)	トウモロコシ	<i>Zea mays</i>	種子	食
メープル	カエデ	<i>Acer</i> spp.	?	材, 飲料
メロン	メロン	<i>Cucumis melo</i>	果肉	食
モーニンググローリー	マルバアサガオ	<i>Pharbitis purpurea</i>	花	観賞
モンクスフッド	セイヨウトリカブト	<i>Aconitum</i> spp.	花	観賞, 薬

表2 植物の名前を借りた色名（植物色名）、その由来と植物の主な用途（続き）

色名	和名・別名	学名	色名の由来	主な用途
ライム	ライム	<i>Citrus aurantifolia</i>	果皮	食
ライラック	ムラサキハシドイ、リ ラ	<i>Syringa vulgaris</i>	花	観賞
ラズベリー	ラズベリー	<i>Rubus spp.</i>	果実	食
ラベンダー	ラベンダー	<i>Lavendula officinalis</i>	花	観賞, 香料
ルーピン	ノボリフジ, ルピナス	<i>Lupinus spp.</i>	花	観賞
レモン	レモン	<i>Citrus limon</i>	果皮	食
ローズ	バラ	<i>Rosa hybrida</i>	花	観賞, 香水
ローズウッド	シタン	<i>Pterocarpus santalinus</i>	材	材
ロータス	ハス	<i>Nelumbo nucifera</i>	花	食, 観賞
ローリエ	ゲッケイジュ	<i>Laurus nobilis</i>	葉	香料, 薬
ログウッド	アカミノキ	<i>Haematoxylum campechianum</i>	材	染料
ロベリア	サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	花	観賞

本表は本稿の末尾に挙げた参考文献によって作成した。

の進歩発展, 他言語からの影響（本稿では英語以外はリストアップしていない）などによって多様化する傾向がいちじるしいことのほかに, 日本人の日常生活の場で最近とくに顕著になった横文字の氾濫を反映しているものと考えられる。

上に述べたように, 表記法や読み方で色名の方が少し違ってくるのは, 漢字表記は同じであるが読み方が異なる例, 国や地方によって名前が異なる例（異名, 別名など）, 時代によって植物名であらわす色そのものや読み方が変わる例, 色名のもとになっている植物が違っている例などがあるためである。それらをすこし詳しくみてみよう。

まず, 同じ漢字でありながら, 違った読み方をされる色名として, 菖蒲色は, 「あやめいろ」, 「しょうぶいろ」, 葡萄色は, 「えびいろ」, 「ぶどういろ」, 槿花色は, 「あさがおいろ」(朝顔色と書くこともあり, ムクゲ=木槿の古名だといわれる。), 「むくげいろ」, 款冬色は, 「かんとういろ」, 「ふきいろ」, 薔薇色は, 「しょうびいろ」(または「そうびいろ」, 「ばらいろ」, 榛色は, 「はりいろ」, 「はしばみいろ」がある。

かな表記では同じであるが, 漢字は異なっている例として, 「かばいろ」がある。カバザクラやダケカンバなどの樹皮の色である「樺色」と, ガマの穂の色を示す「蒲色」である。

古い名前が色名のなかに残っている漢字表記の例として次のようなものがある。伝統色名では, 櫻(シュロまたはソウと読む)色はシュロの, 「月草」, 「千草」はツクサの, 「椽」はクヌギの, 「忘れ草」

はカンゾウの, 「朱華」, 「唐楊」はニワウメの, 「尾花」はススキの古名である。バラの「薔薇」(そうび, しょうび) は今では古名の部類に入るとみることができよう。

前述の古名のほかに, 別名や異名による色名があるために, 同じ植物がいくつかの色名をもつ例がある。伝統色名では, ベニバナは紅(くれない)色と紅花色, タチバナは柑子(こうじ)色と橘色, アヤメはあやめいろとしょうぶいろ, フキは款冬色と藍色, ツワブキは款冬色と石藍色があげられる。英語色名では, マロニエがマルーン, チェスナットとホースチェスナット, クリはチェスナットとマルーン, トウガラシはパプリカとピーマン, ミカンはタンジェリン(オレンジ)とマンダリンオレンジ, ハシバミはヘイゼルとフィルバート, セイヨウスモモはプラム, プルーンとダムズン, トウモロコシはコーンとメイズなどである。

さらに, 同じ色名でも, 由来する植物(属名, 種名など)が異なる記述もみられる。たとえば, 樺色はダケカンバやヤマザクラの樹皮の色に由来するといわれるし, 款冬色は, フキあるいはツワブキの花色とされる。チェスナットはクリやマロニエの果実, ベルフラワーはキキョウやホタルブクロの花, マルーンはマロニエやクリの果実の色を指しているといわれる。

珍しいところでは, 同じ植物に由来する色名であるが, 日本の伝統色「桃色」は花の色に由来するのに対して, 和名モモにあたる英語「ピーチ」が色名として使われる場合には果肉の色を表わす, という

ように文化による視点の違いを示す事例もある。

植物に関係する色のなかで、植物色名と間違えやすいのが、桜桃色と菜の花色である。前者はセイヨウミザクラの果実、後者はアブラナ属植物の花のことであり、いずれも植物の和名ではない。

以上のようにすくなくならず混乱がみられるのは、科学的分類体系が確立される前から方言や国による名前の違いを含む植物の名前が色名に借用されてきたものがあること、色の認識そのものが個人や文化によって異なるので類似の色や形をもつ植物では混同を招く可能性があること、色名と植物との対応に関する検証が必ずしも厳密には行われてこなかったことを示唆するものと考えられる。

本稿では色名と植物との対応についての詮索は行わず、日本の伝統的色名と英語名として紹介されている色名を可能な限りリストアップしているが、色名とその由来となる植物との対応を種レベルで克明に検討するのも、興味深い研究課題の一つになるのではなかろうか。

4. 植物色名の由来とその植物の主な用途

まず植物色名の由来については、資料によって異論のあるものがあり、それらは可能な限り取り上げてまとめたので、複数記述になっているものもある(表2)。そのことを踏まえたうえで、色名の由来を概観してみよう。なお、その割合は、植物の属・種の数、すなわち、伝統色名では111種類、英語色名では124種類に対する百分率で示した。

植物の部位については、伝統色名、英語色名ともに、花に由来するものが圧倒的に多く、次いで、果実・種子に由来するもの、三番目が茎葉部に由来するものであった(図1)。伝統色名と英語色名で違いがみられたのは、果実・種子に由来するものは英語色名に多かったこと、染色したときの色に由来するものは英語色名よりも伝統色名に多かったことである。

色名となった植物の用途については、時代により、国や地域によって異なる。資料や植物図鑑などを参考にしてまとめた表2をもとに、どんな用途の植物が多いかを探ってみた。

伝統色名、英語色名のいずれについても、飲食嗜好用と観賞用の植物が多く、両者間の違いは大きくなかった(図2)。次いで、多かったのは薬用・香用植物であり、英語色名よりも伝統色名の植物におおかった。また染料として使われる植物も、英語色名より伝統色名に多かった。

以上のように、植物色名に使われている植物の多くは、主に花や果実・種子などを観賞用、食用、薬用・香料として用いられてきたものであることがわかる。これらの事実は、「色名は人々の生活の中から生まれた」(武井 1975)といわれるが、身近にあって見たり、食べたりすることができるので誰もが共通に知っていて、伝達者が伝えたい色を、受ける人が容易にイメージできる植物が媒体として使われてきたことから植物色名が生まれたことを物語っている。

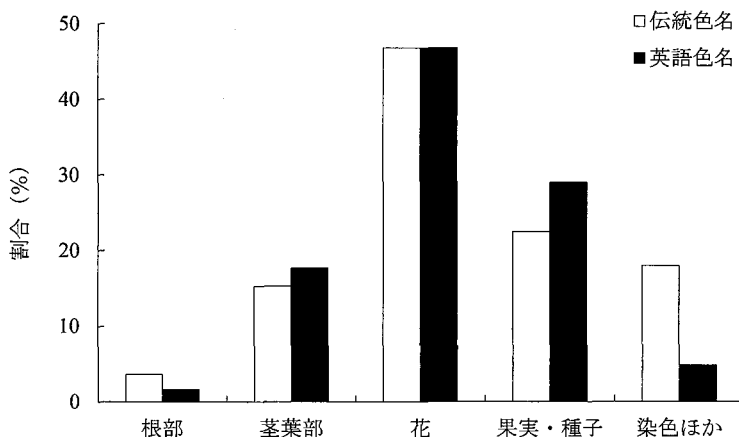


図1 植物色名の由来

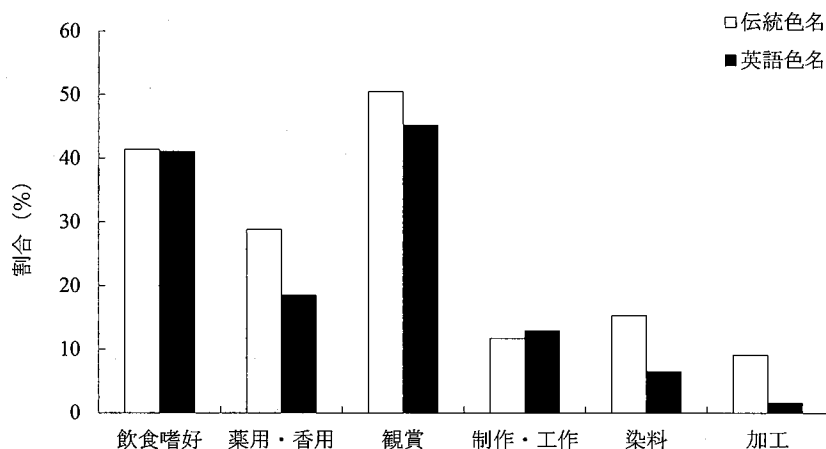


図2 色名となった植物の主な用途

おわりに

花、果実・種子、葉、茎などに、植物独自の色をもつ植物が当たり前であった時代には、植物名を借りて色を表現することができたろう。ところが、園芸の発展は、品種改良によって植物の色彩をいちじるしく多彩なものにしてきた。花だけでなく、果物でさえも、多くの色の品種が作出されている。したがって、かつては植物の花や果実・種子、樹皮の色などを借りて植物名で色名を表現できるものも多かったとみられるが、いまでは一口に植物名で色名を表現することはむづかしくなっている例がとくに品種改良の進んだ身近な園芸植物に多い。

実際、バラ色といっても、バラに少し詳しい人であれば、「それはどんな色ですか」という質問が返ってくることになるのではなかろうか。バラに限らない。コスモス然り、カーネーション然り。果菜のトマトもそうである。このことは、もともとよく知られていたバラは赤色だったので、それに近い色がバラ色といわれてきた、という注釈つきにならざるを得ないことを意味する。つまり、単純に植物名と色名を結び付けるわけにはいかなくなっている。

植物の名前を借りて色を表現する文化という面からみた場合、園芸の発達、施設栽培の発達や不時開花品種の作出による季節感の喪失にみられるように、多彩な色の品種育成による植物種独自の色の喪失という負の遺産をもたらしたといえるかもしれない。

したがって、植物の名前を借りた色名を通してそ

の植物に親しむという手法は必ずしもすべての色にあてはめるわけにはいかないことを理解しておかねばならない。とはいえ、園芸化が進まず色の変異が少ない、色名となっている野生植物への関心を高めることには有効であろう。また、植物の名前が色名として使われているという事実を認識させること、どの植物がその色名のもとになったか、古来の植物はどんな色だったのか、という疑問を子どもに抱かせることが植物への関心を高めることにつながるし、仲間同士や園芸療法の話場での話題の一つとなり、園芸への興味を深めうる点では、植物色名にはまだまだ大いに活用余地があるといえよう。

参考文献・引用文献

- 天野 節 (編著) 1980. 色名総覧. 錦光出版. 東京.
 福田邦夫 1987. 財・日本色彩研究所編. 日本の伝統色一色の小辞典. 読売新聞社. 東京.
 福田邦夫 1999. 色の名前はどこからきたか その意味と文化. 青娥書房. 東京.
 福田邦夫 2006. 決定版 色の名前 507. 主婦の友社. 東京.
 濱田信義 2007. 日本の伝統色. ピエ・ブックス. 東京.
 福田邦夫 1988. ヨーロッパの伝統色 色の小辞典. 読売新聞社. 東京.
 福田邦夫 1999. 色の名前はどこからきたか その意味と文化. 青娥書房. 東京.
 岩崎書店編集部 (編) 2007. 色の大研究 色の名前事典. 岩崎書店. 東京.
 城 一夫 1986. 世界慣用色名色域辞典 COLOR ATLAS 5510. 光村推古書院. 東京.
 城 一夫 1997. 色彩博物館. 明現社. 東京.
 清野恒典・島森 功 2005. 色名事典. 新紀元社. 東京.
 久野尚美・フォルムス色彩情報研究所 1998. 色の小事典 カラー&イメージ. グラフィック社. 東京.

- コロナ・ブックス編集部 2012. 日本の伝統色. 平凡社. 東京.
- 牧野富太郎 1966. 牧野新植物図鑑. 北隆館. 東京.
- マンセル, A.H. (日高杏子訳) 2009. 色彩の表記. みすず書房. 東京.
- 増田絹子・松尾英輔 2001. 植物に関する色名. 九大農学芸誌 55 (2) : 161-168.
- 松本宗久 1993. 日本色彩大鑑. 河出書房新社. 東京.
- 松尾英輔・増田絹子 1999. 植物に由来する色の知名度—農学部学生を対象とした調査から—. 日農教誌 30 (1) : 7-13.
- 長崎 巖 2006. 日本の伝統色 —配色とかさねの事典—. ナツメ社. 東京.
- 長崎盛輝 1988. 日本の伝統色彩. 京都書院. 京都.
- 長崎盛輝 2006. 新版日本の伝統色 —その色名と色調—. 青幻社. 東京.
- 永田泰弘 (監修) 2002. 日本の269色. 小学館文庫. 東京.
- 永田泰弘 (監修) 2002. 新版色の手帖. 小学館. 東京.
- ネイチャープロ編集室・近江源太郎 (監修) 2000. 色の名前. 角川書店. 東京.
- 尚学図書 1988. 国際版色の手帖. 小学館. 東京.
- 鈴木基夫・横井政人 (監修) 1998. 山溪カラー名鑑 園芸植物. 山と溪谷社. 東京.
- 武井邦彦 1973. 日本色彩事典. 笠間書院. 東京.
- 武井邦彦 1975. 色彩の発見. 時事通信社. 東京.
- 武井邦彦 2008. 色彩の再発見. 時事通信社. 東京.
- 内田広由起 2008. 定本和の色の辞典. 増補特装版. 視覚デザイン研究所. 東京.
- 上村六郎・山崎勝弘 1943. 日本色名大鑑. 甲鳥書林. 東京.
- 梅棹ら 1995. カラー版日本語大辞典. 講談社. 東京.
- 和田三造 (監修) 1954. 色名大辞典. 創元社. 東京.
- 吉岡幸雄 2000. 日本の色辞典. 紫紅社. 京都.
- 財・日本色彩研究所 1992. 新色名事典. 日本色研事業. 東京.
- 財・日本色彩研究所 1993. 色彩ワンポイント [全10巻]. 財・日本企画協会. 東京.